

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2019-2001	利用形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象: 歯科検診受診者約30,000名 試料: なし 情報: 基本情報(年齢、性別)、血液検査結果情報、調査票情報(飲酒、喫煙、生活習慣、既往歴、全身疾患、社会関係及び社会経済状態指標)、歯科検診及び質問票情報、ゲノム配列情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	東北メディカル・メガバンクデータを利用した遺伝と口腔と全身の健康に関する疫学研究			研究期間	2019年7月～ 2024年6月	
実施責任者	相田 潤	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	准教授
研究目的と意義	これまでに多くの口腔と全身の状態について検討が行われてきている。しかしエビデンスは十分とは言えない。その理由として、複雑にからみあう遺伝要因と社会的決定要因の影響を十分に考慮できていなかったことが挙げられる。この課題を解決するうえで、東北メディカル・メガバンク機構のデータは、遺伝的要因、社会的決定要因、口腔の健康、全身の健康のすべてがそろった世界的にも数少ないデータであり、その活用は世界的にも期待されている。そこで具体的に本横断研究においては、1) 遺伝的要因が口腔の健康にどの程度関連しているのか、生活習慣や社会的決定要因の影響を考慮した上で明らかにすること、2) 口腔の健康が全身の健康にどの程度関連しているのか検討すること、3) 遺伝的要因で予測される口腔の健康状態がどの程度全身の健康と関連するのかを検討すること、を目的とする。					
研究計画概要	まず、東北メディカル・メガバンク機構の歯科健診データに、質問紙データを結合させたデータベースを構築する。またゲノムワイド関連分析による、歯周病やう蝕のリスク遺伝子の変異の有無を上記のデータベースと結合する。そのうえで、個人の口腔内状態と全身の健康に関する項目について年齢、性別、喫煙、飲酒、生活習慣、社会関係および社会経済状態指標、血液検査結果を調整し、統計解析を行う。					
期待される成果	本研究では、生活習慣や社会的決定要因の影響を考慮した上で、遺伝的要因がどの程度歯科疾患に寄与しているのか明らかにできる。この結果もし遺伝的要因の寄与が比較的大きい歯科疾患が明らかになった場合、ハイリスク群に属する親に対して疾患特有の健康教育をその子どもに求めるといった新しい健康教育開発のための基礎的知見となるだろう。 さらに口腔の健康と全身の健康の関連について明らかにできるため、口腔の健康を守ることでどの程度全身の健康の維持につながるかの基礎的知見が得られる。					
これまでの倫理 審査等の経過	2019年7月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	関係する解析は、すべて東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピュータ内で実施する。					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク計画、科学研究費助成事業					
* 公開日	令和元年12月26日					